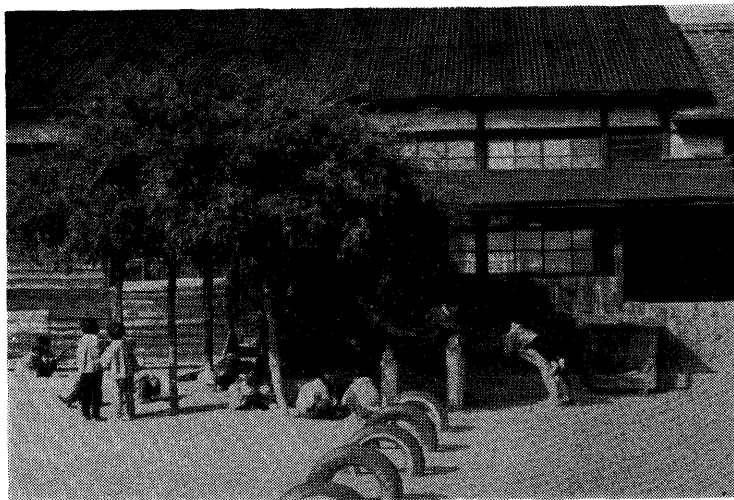


農村の保育園の記録②

磯部景子

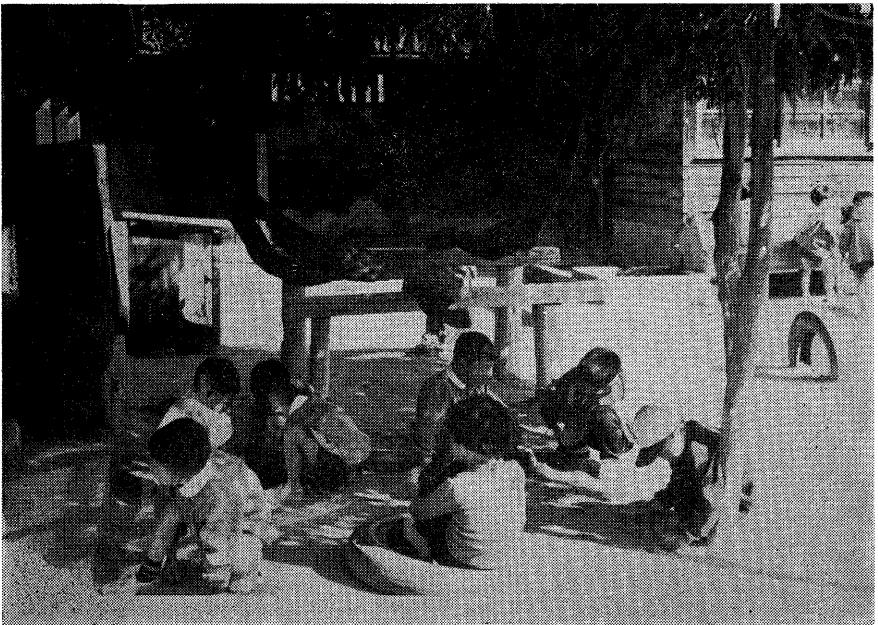
藤の木 I

大きな藤の古木、  
いつもだれかが遊んでいる。



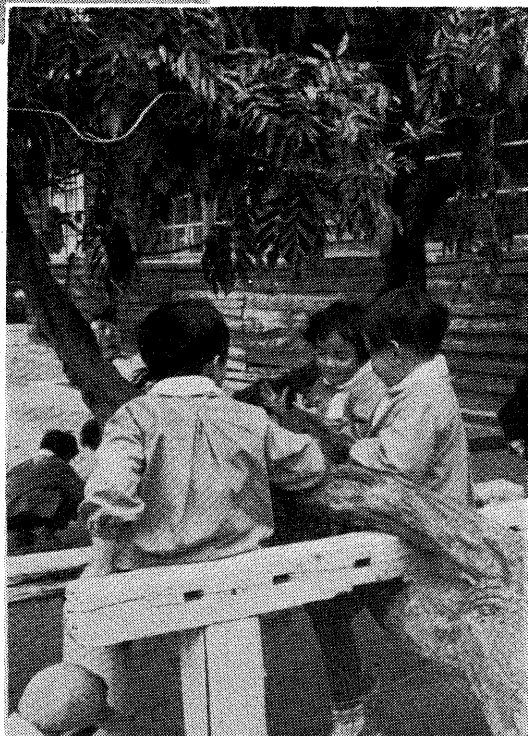
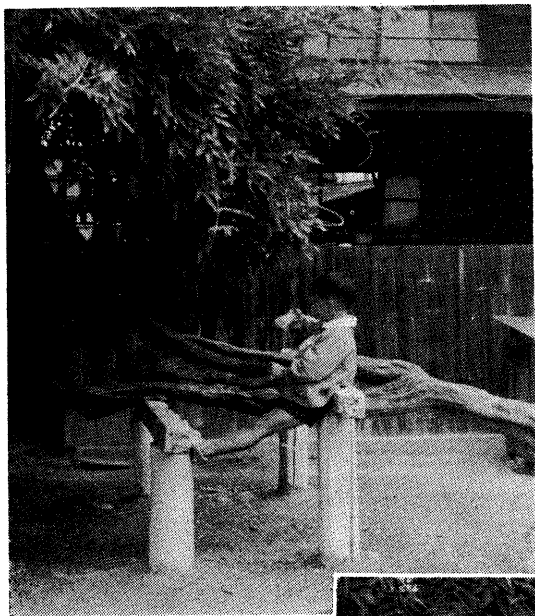
## 藤の木Ⅱ

藤の木陰や藤棚の下は、  
子どもたちの好きな遊び  
場のひとつ。いろいろな  
遊びが展開する。



### 藤の木Ⅲ

庭のあちこちで、子どもたちが遊んでいる。彼は、ひとりで藤の木にまたがって「ブーブー」といろいろな音を出して運転に夢中になっている。



藤の木にまたがってあやとりをする。みてる友だちも藤の木にまたがっている。

藤の木Ⅳ ある日の根もと付近

ある子どもたちの根城であり、ある子どもたちにとっては「かくれが」である。

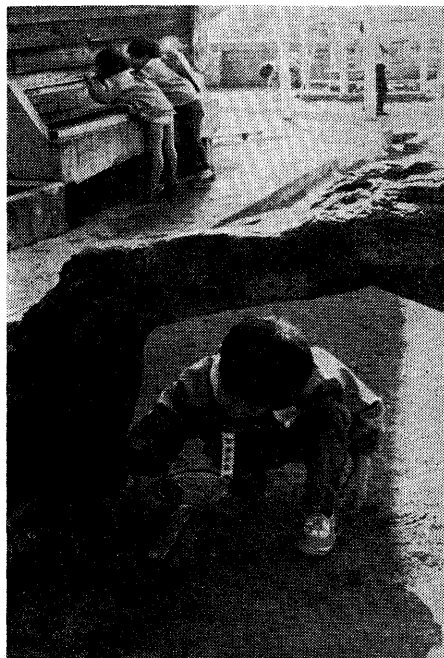


高見台でもある

別の日の根もと付近

保育園で飼っていた金魚が死んだ。

金魚のお墓をつくる子どもたちが入れ代わり立ち代わりやってくる。



### 藤の木 V

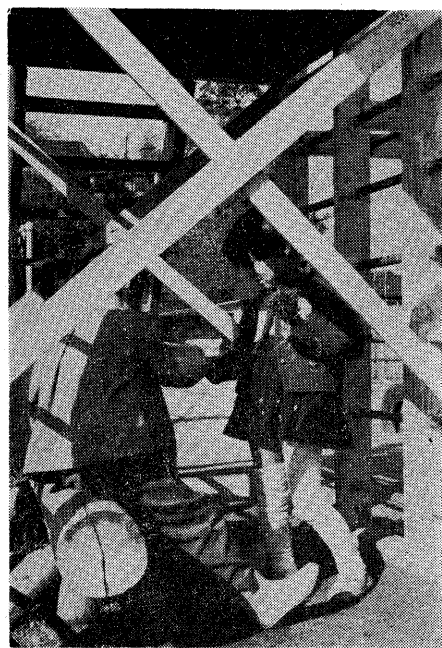
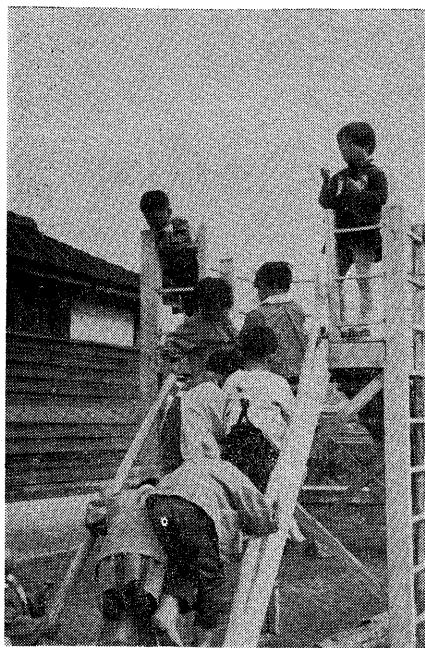
藤のつる。秋も深まり藤の葉  
やつるがどんどんおちはじめる



雨あがりの早朝、  
先生が、はきあつめておいたところに子ども  
たちが集まってきてつるをひろいはじめる。

そのあとすべり台の階段で  
学校ごっこがはじまる。

すべり台の下でしばらく  
遊ぶ。



◎この保育園に関することは本誌68巻2号「農村の保育園 (P62)」を参照して下さい。